

孺恋村のキャベツ栽培で発生する コナガに対する薬剤の防除効果

研究のねらい

コナガの基幹防除薬剤として活用されてきたジアミド系殺虫剤の効果が低下しています。そのため、①コナガに効果のある薬剤の選定、②効果の認められた薬剤を用いてローテーション散布の効果確認を行いました。

技術の特徴

- 1 コナガに効果のある13薬剤の防除効果を調査した結果、スピネトラム水和剤（ディアナSC）、BT (kurstaki) 水和剤（エスマルクDF）、フィプロニル水和剤（プリンスフロアブル）、スピノサド・メトキシフェンジド水和剤（ファルコンエースフロアブル）などはコナガに対して防除効果が認められました。
- 2 効果の認められた薬剤を用いて、ローテーション散布を行った結果、薬剤の散布間隔が14日ではコナガなどの食葉性害虫に対して防除効果が劣りましたが、7日または10日とした場合ではコナガの寄生数や被害を低く抑えることができました。

3 コナガの薬剤抵抗性の獲得は、防除を困難にします。

これを回避するため、系統の異なる薬剤をローテーション散布をすることが有効です。



写真 散布間隔 14 日での被害状況（定植 57 日後）

今後の取り組み

本技術の生産現場での普及を図るとともに、性フェロモン剤（交信攪乱剤）を利用したコナガの防除技術の確立に取り組んでいきます。

（執筆者：大河原 一品）

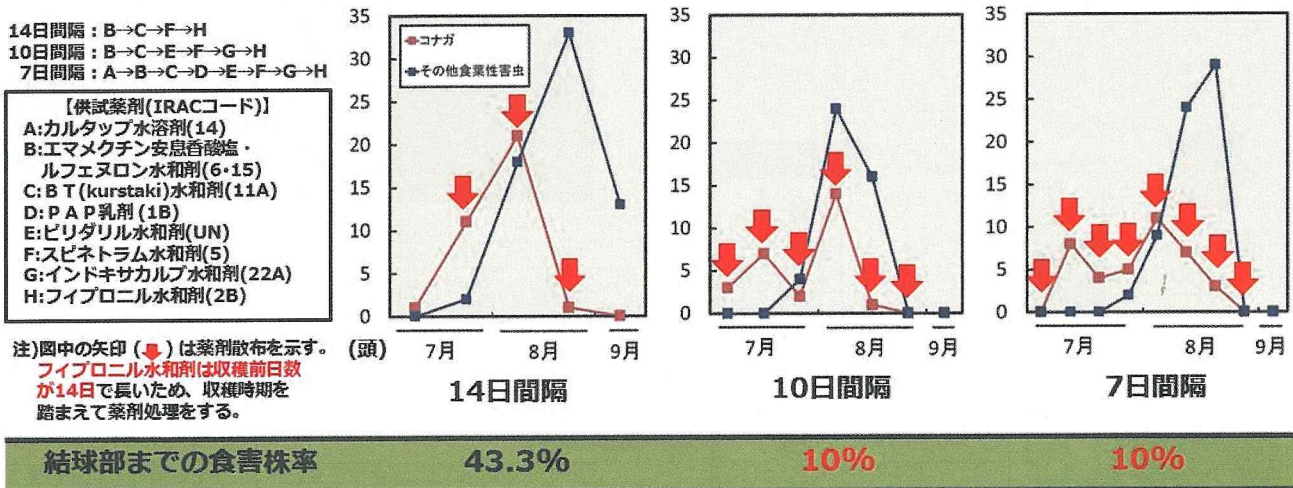


図 異なる薬剤散布間隔が食葉性害虫に及ぼす影響